

平成30年度 地域連携活動報告書

協定締結日	2016/10/20	連携先名称	高知県農政部
活動状況	継続中	連携先窓口	—
活動資金	自治体予算	担当教員(所属)	穂坂賢
活動体制(単位)	個人	関連教員(所属)	—
活動内容	高知県の依頼により、第3回(平成30年度)高知県酒米品評会表彰式において、「酒造りにおける酵母の重要性と酒造りによる地域振興」というテーマで、平成31年1月24日に特別講演を行った。		
活動成果	高知県における酒米生産にとって、コメの重要性と高知県のお酒の価値等を踏まえ、コメ生産者の方々へ向けその意義を発信した。生産者の方々に酒米の重要性について意識付けができたのではと思っている。		
課題・改善点	個別案件で協力しているが、窓口担当を明確にし、個々の連携がはかれればと思う。個人的につながりが強い県であるので、気にしていませんが。		

平成30年度 地域連携活動報告書

協定締結日	2016/10/20	連携先名称	高知県
活動状況	継続中	連携先窓口	-
活動資金	自治体予算	担当教員(所属)	馬場正・高畑健
活動体制(単位)	個人	関連教員(所属)	根岸寛光・篠原弘亮・キムオッキョン・吉田実花・宮田正信
活動内容	<p>1) 2019年2月25日(月)から3月4日(月)の7泊8日で愛媛・高知での農業体験研修を行った。そのうち高知県での活動は、28日(木)から4日(月)であり、高知県立農業担い手育成センターでの実習、野村農園(カンキツ'小夏'農家)での実習、高知県農業技術センターの視察、赤岡青果市場の見学、日曜市の見学、西島園芸団地(観光農園)の視察などを行った。参加学生数は30名、引率教員2名であった。</p> <p>2) 2018年9月14日(金)、高知県農業技術センター生産環境課品質管理担当チーフ宮崎清宏氏が来学され、農産物の鮮度保持、輸出に関して意見交換を行った。</p> <p>3) 2018年8月16日(木)、17日(金)の1泊2日で高知県農業技術センター果樹試験場に植物病理学研究室の教授篠原弘亮と助教キム・オッキョンが赴きカンキツ病害対策に関する現地調査及び研究検討会に参加した。また12月7日(金)に高知県庁職員の清遠亜沙子氏と山崎淳紀氏に来学いただき、植物病理学演習(二)および(四)において、「残留農薬検査と農薬登録」および「高知県における作物病害」について講演をいただいた。</p>		
活動成果	<p>1) この実習において、現場(農家)での体験・実習の重要性、また活動そのものが大学と地域に補完関係を構築させることが明確となった。実習期間中において、移動中のバスや宿舎において複数回の振り返りミーティングを行った。学生が自らの考えやアイデア、そして意志を他者の前で表現することで、プレゼン能力を向上させ、農業を学ぶことの意義や理念を周囲と共有することに貢献した。この実習において、参加学生は自己実現力を高め、周囲と協調・協働する方策を身につけることができた。その結果、この実習は自己実現の一環として、再び農業現場での実習や地域ボランティアへの取り組みへと向かわせるきっかけにもなった。</p> <p>2) 宮崎氏とは、切り花の減圧保管や、青果物のヒートショック処理あるいは温度管理の考え方などについて意見交換を行った。またユズの輸出に関して北川村の事例に基づいて、詳細な情報をいただいた。輸出がさらに進展するように高知県でユズ生産を行っている卒業生農家に伝えた。</p> <p>3) 高知県の現地調査では、カンキツシステムピットング病の防除に向けて、病原であるカンキツトリステザウイルス(CYV)の特性解明および系統解析に関する情報交換とともに、今後の研究に向けて現地調査に赴き罹病試料を採取した。また12月の招聘では、清遠氏には「残留農薬検査と農薬登録」に関して、高知県特産のショウガを例にマイナークロップにおける農薬登録の難しさと必要性、山崎氏には「高知県における作物病害」に関して、新病害や重要病害に対する現場の状況に合致した防除方法の構築について講義をいただいた。</p>		